

研究テーマ	【 II 材料などのよさや可能性を豊かに感じ取る造形教育を考える】 自分の思いや願いを工夫して表現する力を育てる図画工作科の学習指導の在り方 -第4学年「ほってでてくるふしぎな世界」の実践を通して-
-------	--

つくば市立春日小学校 教諭 細田 愛

1 研究テーマについて

児童は表現活動の様子から発想が豊かで、一人一人の思いが画面に表れるようなアイデアスケッチをかき、楽しみながら作品をつくっている。特に初めての材料や用具とのふれあいは、児童にとってもワクワクする体験である。新しい用具との出会いとふれあいから、自分の思いや願いを表現することをテーマとして迫りたい。

今回の木版画は、第4学年において初めての題材であり、彫刻刀においても初めて扱う用具となる。自分の手で用具を動かし、板を心地よく彫る振動や音、長い直線を彫ると出てくる渦巻き状の木くずに感動する体験ができる。本教材は一版多色刷りのため、彫る活動と同じだけ刷る活動があり、一色一色刷り上げ、徐々にできあがっていく喜びを味わわせていきたい。さらに彫りや刷りの活動において多様な体験をさせたり、学習過程に相互鑑賞を取り入れたりすることで、自分の思いや願いに合った表現方法を見つけ出すことができると考えた。表す過程において児童自身が材料や用具とふれあいながら表現方法を試し、友人のよさを認め合いながら作品に生かしていけるような場を設定することで自分の思いや願いを工夫して表現する力を育てることをねらいとした。

2 実践例

(1) 題材名 ほってでてくるふしぎな世界

(2) 題材の目標

用具や友人との関わりの中で、いろいろ試しながら想像を広げ、自分の思いや願いを工夫して表現する。

(3) 題材について

①多様な表現を試す学習活動の工夫

彫刻刀は第4学年において、初めて扱う用具である。好奇心旺盛な本学級児童においては、扱い方や古いもの（刃先が錆びているものや欠けているもの）は危険が伴うため念入りに扱い方の説明をしていきたい。また、ペアで持ち方を確認する活動や、基本的な彫り方を繰り返し、段階的に経験するようなドリル学習を取り入れることで、新たな技能への意欲を高め、自分なりの新しい彫り方を発見するきっかけとしたい。

さらに、「ためしスペース」を設置し、授業中自由に彫りの確認ができるようにした。自分の作品のイメージにはどのような線がよいか試すことで、より自分の思いや願いに近づけるのではと考えた。

②友人と交流できる場の設定

学習過程全般において、活動中は自由に友人と交流できる場を設定していきたい。友人同士「この彫りはいいね。」「この色と色の組み合わせはどうしたの。」などお互い教え合ったり、よいものを取り入れたりすることは、言語活動の充実に関する指導事例集（平成23年10月）の（2）イの「感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりすること」という言語活動の充実につながっている。そうすることで、児童がより自分の思いや願いを作品に生かすことができる

と考える。完成時には、鑑賞会を開き、お互いの作品のよさを認め合うことができる場としたい。

③用具との関わりと基礎的な能力の定着

児童は、これまでにカッターナイフやのこぎりなどを使って学習してきた。刃物の危険性や便利さについて経験しており、今回の彫刻刀においても初めて扱うものではあるが、緊張感をもって取り組むことができると考える。また、彫刻刀は来年度以降、さらに中学校の美術科においても扱う用具であるため、基礎的な能力をしっかり身につけておかななくてはならない。

また、刷りの段階において、絵の具による混色の学習を生かし、色の組み合わせを考え表現することは、5, 6年生の「よさや美しさなどを考えて表現する」活動へスムーズに繋がると考える。

(4) 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
版木を彫刻刀で彫ったり、絵の具をつけて刷ったりする楽しさを味わおうとしている。	想像を広げ、彫りや刷りを工夫して表わそうとしている。	彫りや刷りをいろいろ試しながら効果的に表わそうとしている。	友人と表したかったことや彫りや刷りのよさを味わっている。

(5) 指導と評価の計画 (9時間扱い)

※○印は時数

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ③	・彫刻刀の種類や扱い方を知る。	・彫刻刀の扱い方や彫り方について意欲的に学ぼうとしている。 関 【観察・ワークシート】
	・アイデアスケッチをして、版木に下絵を写す。	・想像を広げ、自分の思いや願いを下絵に表している。 発 【観察・アイデアスケッチ】
第2次 ⑤	・彫り方を試しながら、版をつくる。 (本時)	・彫りをいろいろ試しながら、効果的に表している。 創 【観察・作品】
	・色の組み合わせを考えながら刷る。	・色の組み合わせを工夫しながら表している。 発 【観察・作品】 ・絵の具の付け方や刷り方を理解し、効果的に表している。 創 【観察・作品】
第3次 ①	・相互鑑賞会をする。	・友人の表したかったことや彫りや刷りのよさに気付いている。 鑑 【発表・鑑賞カード】

(6) 本時について

①目標

彫刻刀の彫りを試しながら、自分の思いや願いに合った表現方法を見つけて表すことができる。

②準備・資料

〈教師〉版木、試し板、彫刻刀の種類と彫りあとがわかる掲示物、作業台

〈児童〉彫刻刀 (三角刀, 丸刀, 小丸刀)

③展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div data-bbox="183 241 721 360" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ちょうこく刀のほりをためして、 いろいろな表現を見つけて表そう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀の持ち方と彫り方 ・危ない彫り方 ・席を立つときの用具の扱い方 <p>2 版木を彫刻刀で彫る。</p> <p>(1) 下絵の線に沿って彫る。</p> <div data-bbox="167 667 737 1377" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">ふしぎな世界 「こっそりのぞいた海の中は どうなっているかな」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>彫り 彫刻刀 試しスペース</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>用具とのかかわり</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>刷り 絵の具 色の組み合わせ 混色</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">願い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>友人とのかかわり</p> </div> <p style="text-align: center;">思い</p> <p style="text-align: center;">イメージに合う 表現方法の発見</p> <p style="text-align: center;">つくることへの喜び</p> </div> <p>(2) 相互鑑賞をする。</p> <p>(3) 友人の作品のよさを発表する。 (予想される児童の発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚のえらは鋭く細い線にするなど彫刻刀を使い分けている。 ・丸刀で泡のやわらかい感じがよく表れている。 ・彫り方が滑らかで丁寧。 <p>3 後片付けをする。</p> <p>4 次時の学習の確認をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀の扱い方については事前に学んでいるが、導入時に再度持ち方や心構えを確認する。 ・作業場所や試しスペースの確認や移動するときの注意点を確認して、児童が安全で効率よく作業できるようにする。 ・学習中自由に試しスペースへ移動して、実際に彫ることで、どのような表現になるか体験できるような場を設定しておく。 ・彫りながらイメージが膨らんだ児童には、下絵をかき足したり、下絵を省いて思いのままに彫り進めたりしてよいことを知らせる。 <div data-bbox="758 855 1401 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>創 多様な表現方法を試しながら、自分の作品に工夫して表している。 (観察, 作品)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・彫りが進められない児童には、試しスペースで一緒に彫り方を確認して、彫る感覚を身につけられるようにする。 ・基礎的な彫刻刀の扱い方や彫り方を身につけることで、来年度以降の学習に生かせるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の彫刻刀を片付けてから、友人の作品を見るように指示する。 ・彫りの工夫に視点を置いて鑑賞するように助言する。 ・友人の作品を見て感じたり、思ったりしたことを、相手にわかりやすく伝えられるように助言する。 ・教師が作品を手に取り、全体に見せながら児童が発表した内容を確認しながら賞賛し、次時の作品づくりに生かしていけるようにする。 ・彫刻刀を安全なところに置いてから、机の周りを片付けるように呼びかける。 ・本時の学習や児童の活動の様子を話すことで、次時の学習の意欲付けとなるようにしたい。

3 成果と課題

【成果】

・多様な表現を試すことができた。

今回は初めての彫刻刀ということもあり、使いやすく簡単に彫れるという点で3本の彫刻刀（三角刀、丸刀、小丸刀）のみ線彫りで表現させるようにした。どの児童も何度も練習しているうちに、スムーズに削ることができていた。その中で丸刀の刃を回して削り、小さな丸い円を彫った児童がいた。新しい発見に周りの児童も集まって、得意気にやり方を説明していた。このとき教え合った彫り方は多くの児童の作品に生かされていた。

教室の一角に「ためしスペース」を設置し、授業中自由に行って彫りの確認ができるようにした。児童の版木は表の部分が彫りあとが分かりやすいように水色で加工がしてあるが、彫りの練習では版木の裏を使っているため、試し板で練習することは児童にとってより本番に近い練習となった。

また、いろいろな彫りを試すことで自分の作品に生かしていけるのではと仮説を立てたが、友人が残した彫りあとを見ながら、同じように彫ろうとしている児童もおり、言葉で教え合わない伝え方もあるのだと知ることができた。

・お互いの表現方法のよさに気付くことができた。

彫りや刷りの活動時において、自由に作品を見合う時間を設定し、お互いの表現方法のよさに気付けるようにした。よさを見付けることについて、「上手」ではなく、どんな所がどのように工夫されて彫ることができているかに注目させながら行うことにした。児童の歩き回りながらのつぶやきでは、「彫り方がうまい」や「きれいに彫れている。」などの声が聞こえ、発表時には、「柱の線の細い所を三角刀でまっすぐ彫ってあった。」「コンブや泡のような丸い所は丸刀でやわらかい感じに彫れている。」と彫刻刀の特徴を生かして作品をつくっている点に触れた意見が出てきた。この発表後の活動では、彫るものに合わせて、彫刻刀を選び表現している児童が増えてきた。

【課題】

・彫りの活動に重点を置いてしまい、また彫りと刷りの間に冬休みが入り、気持ちが続かなかったためか、刷りの活動が思った以上に児童も教師も雑になってしまった。一版多色版画は彫りだけでなく、刷りにも時間がかかる。また、刷りで仕上がりが左右するため、できあがりの児童の満足さは十分でなかったような気がする。研究のねらいを達成するためには、刷りの導入時に刷りの仕組みや絵の具の付け方、さらに色の重なりや組合せの美しさについて十分指導する必要があると感じた。

・彫りや刷りの活動に入ってから、版木に写した魚や貝、泡などが小さすぎて彫りにくかったり、絵の具が付けにくくはみ出してしまったりということがあった。児童の思いを大切にしていこうと、肝心のアイデアスケッチの段階で指導が十分でなかった結果である。今後は、児童の思いを大切にしながら適切なアドバイスができるような指導の仕方についても研究していきたい。

〈参考文献〉

『小学校学習指導要領解説（平成20年8月）図画工作編』文部科学省 日本文教出版

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 図画工作】

（平成23年11月）』文部科学省国立教育政策研究所 教育過程研究センター 教育出版

『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力等の育成に向けて～小学校版

（平成23年10月）文部科学省